

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田東3丁目277番地1		
自己評価作成日	令和4年10月3日	評価結果市町村受理日	令和5年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年10月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平屋の2ユニットで、渡り廊下でつながっており、自由に行き来できます</li> <li>・北側の居室でも光が入るように天窓があり、明るいです</li> <li>・畑や花壇があり季節ごとに野菜や花を一緒に育てます</li> <li>・母体は芥見診療所です 訪問診療があり、医療との連携が整っています</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍にあり、利用者からは感染者は出ていないが、職員が家族からの感染や濃厚接触者となった経験をしている。急遽、出勤不可となる職員が出る事態となったが、職員グループラインで連絡を取り合い、職員間の連携で乗り切るなどチームワークが出来ている。看取り支援の際の家族が宿泊できる部屋が増築され、さらなる医療と福祉の充実に向けた支援が整備されている。また、利用者と散歩したり、個別に買い物する際、同行する職員が事業所支給の制服を着用しているの、店の人や地域の人から声を掛けてもらえる関係性ができている。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の・利用者本位・優しい心・笑顔・地域との交流を職員室に掲示し、常に職員が把握し穏やかに過ごせるよう相談し実践しています	勤続年数の長い職員も多く、理念が職員に浸透している。新任者には1ヵ月間、職員が1対1で教育する体制にあり、理念の意識化と実践につなげている。職員も新任教育期間が理念を再確認するよい機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の情報を把握しています 回覧板は利用者と一緒に持って行き挨拶しています	コロナ禍で地域交流が減り、収束後の交流を目標達成計画に挙げていたが、未だ困難な状況であり、計画達成は見送りとなった。今、出来る事を見つけ、職員が地域の人と出会った時には、コミュニケーションを心がけ地域との関係を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	メイト通信に参加させて頂いています 包括主催のステップアップ研修の受け入れをしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、職員のみで開催をしている 事故報告については家族に直接報告しています	運営推進会議を職員のみで開催しているため、「職員会議と捉えられる」との行政からの助言があり、運営推進会議を書面開催とする議事録の様式や内容の工夫、関係者へ配布を検討している。	事前に運営推進会議の構成メンバーに資料送付等で意見を聞き、それについての回答やコロナ禍での運営状況を合わせ、関係者に報告する書面開催の議事録作成に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、包括支援センターの方に、運営推進会議に出席していただき、意見や提案を頂いています	介護保険の加算や助成事業等、市の情報や助言を得ながら活用し、見守りセンサーの導入が予定されている。感染拡大状況が下がった際には、地域包括支援センターから認知症カフェ開催の案内が届くなど、徐々に関係性が戻ってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています 安全上、やむを得ない場合については、具体例を挙げ各棟の会議にて話し合っています 日中は施錠しない為、自由に出入り出来ます 介助中は安全な対応で見守りしています	在宅時から単独外出が頻回であった利用者を受け入れ、入居時に家族と話し合い、安全上やむを得ない場合は施錠で対応している。家族の同意を得ているが、期限は決めていないので、期限を明確にし、身体拘束をしないケアを目指している。身体拘束等適正化委員会の定期開催と職員研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りシート使用、虐待防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議にて伝達する事で、職員の理解や知識を身につけています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者、家族に詳しく説明し、疑問等に関し十分な説明、対応をする事で理解を頂き同意を得ています 改定の際は同意書を頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの希望や要望はいつでも話を傾聴しています リモート面会の際に家族様の要望や話しを伺っています	地域の感染拡大状況に合わせて、曜日を決めてリモート面会にしたり、緩和時には直接面会も予約と時短で実施している。家族には利用者が行事に参加している写真や、担当職員からのメッセージ付きのホーム新聞を毎月発送し、利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から代表との意見交換を行っており管理者が現場に入る事で、管理者と職員の話しやすい環境作りをしています	前回、自己評価作成に全職員が関わることを目標としていた。職員が感染者や濃厚接触者になるなどの状況下で困難も多かったが、急な欠勤にも職員グループラインで対処するなど、職員間の連携も深まり、風通しの良い職場環境になっている。	毎月、職員会議を開催している。担当者からの個別支援報告のみの会議録になっているので、運営に関する報告や意見交換した内容などを記し、運営に活かせる会議録として整備されたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の事情を把握し、各自が向上できるよう研修への参加をすすめて、又管理者や職員の考えを聞き、やりがいのある職場環境に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの心のケア、接遇対応の先生との相談をする時間があります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区のほっとメイト会に参加し、情報収集や意見交換、相談をしながらサービスの向上につながるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時に、どのように過ごしたいか、過ごしてもらいたいかなどを伺い、安心した生活が送れるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じように家族からの要望等を聞き信頼を得るよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約や入居時に話をする中で、家族が安心できる支援を検討し話をしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除等、個々の利用者の得意分野を見つけ一緒に取り組む事で支え合いながら生活しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、ホームからの新聞や電話で様子を伝え、家族にしか出来ない事は協力して頂いています 行事にもなるべく参加して頂き、家族との絆を大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はリモートでの面会をしています 対面での面会が可能な時は、家族様に連絡をし、兄弟や友達の方が来ていただきました	コロナ禍における面会制限があり、馴染みの人と会う事が困難であったが、制限が緩和された時に、短時間ではあったが対面での面会が実現できている。携帯保持の利用者も数名あり、家族や親戚との交流も職員がサポートしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中で利用者の意向を把握しています 本人の意思選択を尊重し、個別ケアをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の相談に応じ、その都度対応しながらお付き合いを大切にしよう努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の思いを把握しています 困難な人は、表情や動きを観察し、家族からも情報を得るようにしています 生活記録、申し送りで情報を共有し統一したケアを行っています	コロナ禍で、外出や地域との交流できない状況にある。外へ出かけられない分、利用者一人ひとりとコミュニケーションを図る時間ができ、思いや意向の把握に活かしている。新型コロナウイルス感染症についてや、現在の状況で出来る事と出来ない事があることを利用者に分かるよう説明しながら、寄り添うケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの生活歴や性格等の情報を取り入れ全職員が把握できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や、知り得た情報を生活記録や申し送りに残す事で、職員同士が共有し同じ対応が出来るようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について常に相談しそれぞれの意見も参考にしています 気付いた事やアイデアをすぐに話し合える環境があります	職員会議で、個々の計画に基づいたケアについて、担当者が報告し、職員間で共有している。家族には毎月の通信で利用者の様子を伝え、面会時や電話等でも意見や要望を聞き、計画に反映させている。定期的に自立支援プログラムのケアチェック表を更新し、モニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプラン経過記録、生活記録を記入し職員間で情報を共有しています 記録を参考にすると共に、各棟会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望、又職員の要望もあり、買物、病院受診等の支援をしています 気分転換に、外出や、買物へ出かけ柔軟な支援に心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、校区内で行われるお神輿の見学、近くのスーパーやドラッグストアへ散歩をしながら買物したり、ホームの近くを散歩して近所の方との触れ合いを心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に外部の受診に関して、かかりつけ医には文章で状態を伝えるようにしています	現在、全利用者が同法人の診療所をかかりつけ医とし、リモート診察も導入している。精神的に不安定な人の場合は、職員が毎日、その人の状態を記録し、専門医と相談しながら対応している。改善に向かった事例や、看護師職員がインシュリン注射を担うなど、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に連絡を取り合い、体調不良や薬の服用についても、ファクスにて相談し対応しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、相談員との情報交換を密にし、本人、家族が安心出来るような対応を行っています また早期退院が出来るように医療機関との連携を図り、退院後の対応も指示を受けながら行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化のあった方は常に主治医に報告するようにしています 終末期のあり方については、主治医、家族、職員をまじえて説明、話しをします	コロナ禍にあっても、看取り支援に取り組んでおり、感染症対策を講じた上で、家族を交えて看取りを実践している。看取り期には、家族が宿泊できる部屋も増築されており、今後は、その場所を感染症対応にも活用できるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は速やかに主治医へ連絡し指示を受けながら対応しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した訓練を行っています 災害食作りも毎年行っています	今年度の災害訓練は事業所単独で実施し、消防署へ報告書を提出している。夜勤専属の新任職員が入り、夜間帯の災害対応について、周知させている。緊急連絡網や避難経路等は事務所の目に付くところに掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を忘れず、個々の人格を尊重した声かけを行い、カーテンや暖簾でプライバシーを損ねないようにしています	利用者への声のかけ方やプライドを傷つけるような言葉遣いになっていないかを、職員間で互いに注意し合っている。車椅子利用者の排泄支援でも、羞恥心に配慮した支援が来ているかを話し合っている。トイレ利用時には、使用中と分かる札を用意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく事で希望や、思いを伝えやすく、自己決定できるような声かけをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや、身だしなみ、お化粧品等、自己決定が出来るように働きかけています 敬老会ではおしゃれをして写真を撮りました		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の野菜を取り入れ、味付けや簡単な料理は利用者も手伝っています 洗いものや、食器、お盆拭きは積極的に行って頂いています	食材の配送サービスを利用している。専属の職員が調理したり、職員が交代で調理済み食品を活用しながら提供している。時には利用者から希望メニューを聞き、献立に加えている。職員は利用者と同じ物を食しているが、感染予防の為、一緒に食べることは控えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、食事の際のお茶も摂取出来ているか確認しています 水分制限のある方は一回の食事での水分量を考えるなど、個々に合わせた調理方法を工夫しながら支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし出来ないところは援助しています 歯磨き困難な方は、スポンジや舌用のブラシを使用して口腔ケアをしています		

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、日中はトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らし、自立に向けた支援をしています	トイレは各ユニットに4か所あり、場所が分かり易いよう大きく表示し、トイレでの排泄が習慣になるよう支援している。誘導が必要な人には声掛けし、失敗を減らしている。夜間は転倒予防のためにポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に運動、散歩、腹部周りのマッサージをし排泄を促しています 記録に残すことで排便の調節ができています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は何時でも入れるように準備しています 汚染の場合や、家族との外出など、個々に沿った支援をしています	入浴は希望する湯温に設定し、個浴でゆっくり楽しめるよう支援している。浴槽の跨ぎが困難な人や重度の利用者の場合は、シャワー浴と足浴で支援するが、事前に浴室を十分に暖めておき、気持ちよく清潔保持できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活パターンを把握し、日中横になり休んで頂く方もみえます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認できるようにしています 薬の準備は訪問診療で話したことを申し送り、また職員2人以上による薬の確認をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を見つけ、その人らしい生活が送れるように支援していきます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常はホームの庭か周辺を散歩しています コロナ感染防止の為、病院以外への外出はしていません 代わりにホーム内で楽しんでもらえるよう、おやつレクを増やし楽しんで頂いています	これまでのような外出行事は自粛しているが、広い敷地の東西に伸びる事業所前の庭は、往復するだけで、ほど良い距離の散歩もでき、外気浴もできる南向きにある。今年は感染拡大状況を見ながら、各ユニットで紅葉狩り外出支援を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームでの預かりをしています、家族と相談し、千円程度持たれ安心される方もみえます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があったとき電話を掛けるように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に色とりどりの花を植えたりしています 談話室にも季節の花をかざり、季節を感じられるようにしています 食事以外は固定された場所を作らず、居心地良く過ごせる場所に移動し過ごしています	各ユニットの玄関は別々になっているが、中間に渡り廊下があり行き来ができる。共有空間を広く活用できるよう、廊下端を車椅子置きスペースにしている。手すりや手が触れる部分をこまめに消毒し、談話室の換気も適時行いながら、感染症予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が近くの席で座れるよう配慮しており、会話や会話やレクリエーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみ等されています また雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々の暖簾をかけ、花や見やすいカレンダーを飾っています また入居時にはなるべく使い慣れたものをもってきて頂くようにしています	例年、衣替えの時期は、家族が衣類等を持ち込んで整理を行っていたが、現在は、感染予防の為、持ち込まれた衣類等の整理を職員が行っている。ポータブルトイレを置いている利用者もあるが、安全に使用できる場所に設置し、清潔に使用できるよう管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないように家具の配置を工夫し、身体状況に応じて安全に移動ができるよう配慮しています		